

家族で守る「我が家のルール」!

家族で守る「我が家のルール」にしてください。



子供の目線で防犯!



- 子供への防犯指導は、「繰り返し」が基本です。
- 日常生活の中で、子供が理解できるように具体的に教えてあげてください。
- 日常生活で「危険な場所」に行ったときに、「あなただったらどうする。」と問いかけてから正しい方法を教えるなど、一方通行にならないよう指導しましょう。



青森県警察本部

ウェブサイト <http://www.police.pref.aomori.jp/>



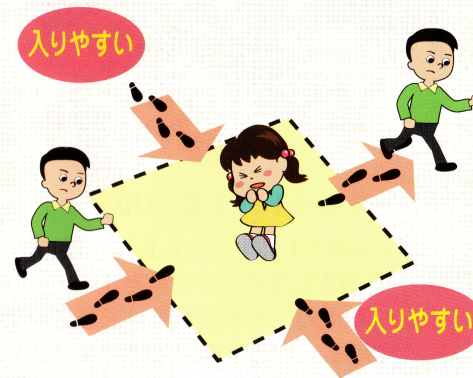
子供を犯罪から守ろう!

景色で「危険な場所」を判断しましょう!

犯罪者は、犯罪に成功しそうな場所(=「危険な場所」)を探して子供に近づきます。「危険な場所」とは、まわりから「入りやすい場所」と、まわりから「見えにくい場所」です。子供には、「景色を見て危険を避ける」判断力をつけさせましょう。また、「危険な場所」は、子供の見守り活動を行う上でのポイントにもなります。

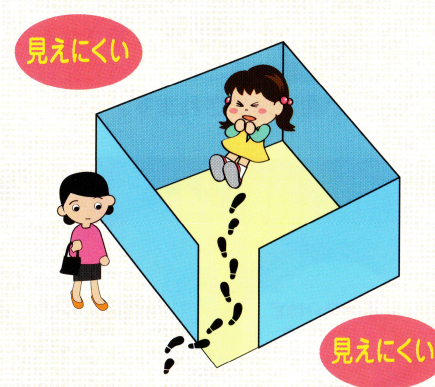
「入りやすい場所」

- ⚠️ 犯罪者があやしまれずに子どもに近づくことができ、すぐに逃げることができる



「見えにくい場所」

- ⚠️ 犯罪者が悪いことをしても見つからない
- ⚠️ 危険な目にあっても、誰にも見てもらえない



- 入るのに邪魔になるものがない
- きちんと区切られていない
- 出入口が多い
- 地域の人が犯罪者に注意していない

例えば

- フェンスなどが無い空き地
- 入り口が男女共用のトイレ
- 防犯ボランティアが見あたらない街

- 見るのに邪魔になるものがある
- 周囲に家の窓がない
- 地域の人が周囲のことに興味がない

例えば

- 通りの両側に高い塀が続く道
- 田や畑の中の道
- ゴミや落書きのある公園

見守り活動をしてみましょう!



日常でも気軽にできる「ながら見守り」

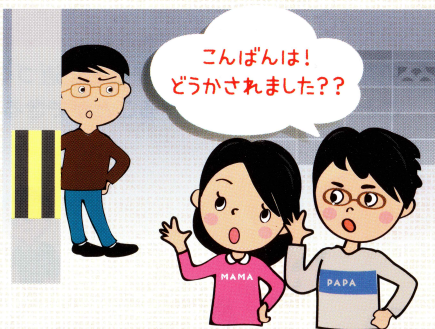
普段やっていることを登下校時間帯に行うことが「見守り活動」になります。

【例えば】

植物への水やり、犬の散歩
買い物、ウォーキング
通勤、配達、雪かき をしながら

見知らぬ人に対する声掛け

犯罪を犯そうとする人は、自分の存在を周囲に知られたいと思っています。声掛けすることで犯罪を断念させることとなり、継続することによって犯罪が起きにくい街が形成されます。



ホットスポットパトロール

「ホットスポットパトロール」は、「危険な場所」に着目したパトロールです。

「ホットスポット(危険な場所)」を見つけたら、見知らぬ人への声掛けとあわせ、15分程度の警戒をすることで、犯罪の抑止効果があがります。

(次のスポットに移動したくても15分は我慢)

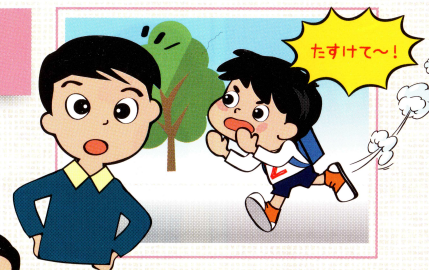
怪しい人や車を発見した場合は警察に通報してください。



こんな場合どうしたらいい?

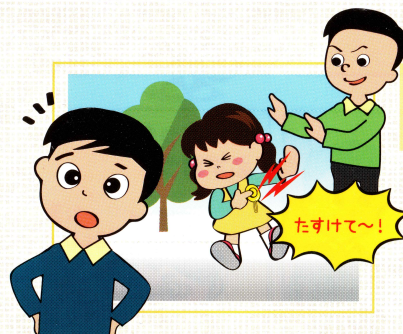
子供が助けを求めてきたら

一時的に保護して、子供を落ち着かせて話を聞き、警察に通報してください。



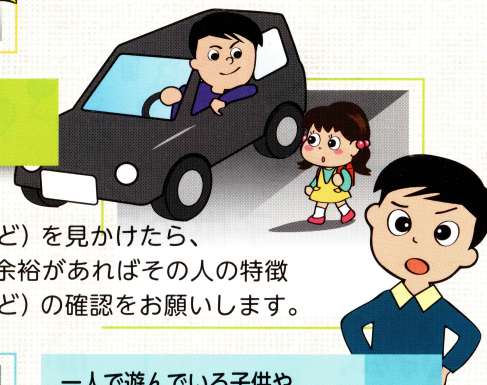
子供の悲鳴や防犯ブザーの音が聞こえてきたら

周囲で子供が助けを求めていないか確認してください。



怪しい人や車を発見したら

子供に対する不審な行為(誘い、つきまとい、撮影など)を見かけたら、警察に通報してください。余裕があればその人の特徴(年齢、車の色、ナンバーなど)の確認をお願いします。



一人で遊んでいる子供や遅くまで遊んでいる子供を見かけたら

ひと声掛け、早く帰るように促してください。また、不似合いな子供連れを見かけた場合もひと声掛けるか、緊急の場合は110番通報してください。



見守り活動の留意点

基本的な見守り活動

- 子供が一人で歩く「1人区間」などの危険箇所への配置
- 見通しが悪い場所など危険な箇所はないか、防犯の観点で確認
- 県警メールマガジンの前兆事案情報を活用した見守りの配置

有事に備えた見守り活動

- 複数人の配置
- 役割分担 ~子供の誘導役、周囲の警戒役、有事の連絡役などをあらかじめ分担しておく
- 周囲の確認 ~事前に有事の際に逃げ込める場所を確認しておくとともに、見守り中は子供のみを意識を取られることなく、周囲の人や車にも注意する